

◆マリンカレッジ等の開催

海洋・漁業体験学習

水産業改良普及センター 小澤明子

1. 目的

後継者育成を図るため、実習等の体験学習を通して、小学生に地元の重要な産業である水産業に関する理解を深め、基礎的知識を習得させること。

2. 開催日時及び場所

平成19年10月31日（水）

沖縄県立沖縄水産高等学校

3. 対象

糸満市立糸満小学校5年生生徒（54名）

4. 講師

沖縄県立沖縄水産高等学校教員、生徒（補助）

5. 内容

	A班	B班	C班
	開 校 式		
午前	ロープ結策 実習 乗船実習	漁具製作 実習	乗船実習 海洋生物 実習
	昼 食		
午後	漁具製作 実習	ロープ結索 実習 乗船実習	海洋生物 実習
	閉 校 式		

A班（22名）、B班（22名）、C班（10名）

乗船実習：実習船かりゆし（19t）乗船

ロープ結索実習：ロープワーク

結索ボード作成

漁具製作実習：イカ餌木作成

海洋生物実習：シラヒゲウニの受精、タマンの放流

乗船実習（全員）では、水産高校の実習船かりゆし（19t）に乗船し、しばしのクルージングを楽しみつつ機関室と操船室の見学を行った。中には初めて乗船する生徒もあり、乗船前は緊張の面持ちであったが、実習後には笑顔がはじけていた。

漁具制作実習（A・B班）ではイカ釣り用の餌木を作成した。細かい作業が多く、工具を使用する場面もあったが、海洋技術科の生徒さんが丁寧にサポートしてくれ、1人も怪我することなく制作を終えることができた。

ロープ結索実習（A・B班）では、船の係留や救命時に使う基本的な7通りの結索方法（オーバーハンドノット、エイトノット、シングルシートベンド、ボーラインノット、スクエアノット、フィッシャーマンズ・ベンド、クラブヒッチ）を、実際にロープを結びながら学習した。その後、結んだロープをコルクボードに貼り付け、結索ボードを作成した。

海洋生物実習（C班）では、午前中にシラヒゲウニの受精作業を行った。採卵・採精の作業は取り合いになるほど積極的な姿が見受けられた。初めのうちは選んだウニが雄ばかりであったが、やっと雌が見つかり、無事に受精させることができた。午後は、水産高校で種苗生産を行い飼育されていたタマンの稚魚（約100mm、780尾）の放流を、沖合にて行った後、ウニの発生の様子を観察した。

参加した生徒からは、「色々体験できてよかった」「機会があるならまた参加したい」との感想が聞かれた。

沖縄水産高校には施設利用の他、7名の先生方と海洋技術科の学生さんの協力を頂きましたことに、この場を借りてお礼申し上げます。



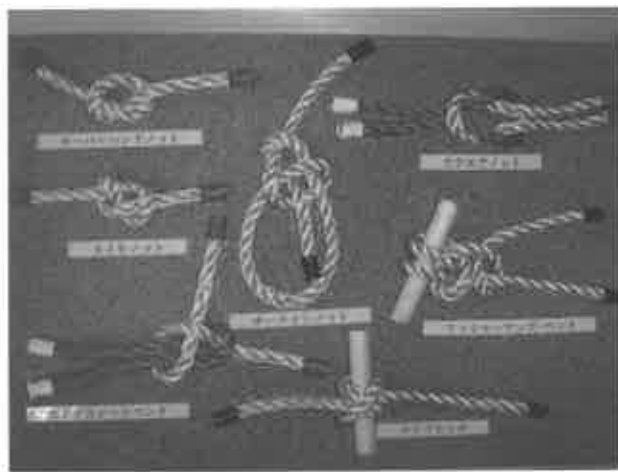
①乗船実習



②餌木製作実習



③ロープ結索実習（ロープワーク）



④作成した結索ボード



⑤海洋生物実習（ウニの受精）



⑥海洋生物実習（ウニ発生の観察）